

中等教育研究開発室年報 第36号 (2023年3月31日発行) 別冊電子版  
2022年度 授業実践事例

保健体育科 中学校第2学年

武道 剣道

授業者 信森 正伍

(教育研究大会 公開授業)

広島大学附属中・高等学校

## 中学校 保健体育科（体育） 学習指導案

指導者 信森 正伍

日 時	令和4年11月26日（土） 第1限 9:30～10:20
場 所	体育館
学年・組	中学校2年 男子 60人（A組20人 B組20人 C組20人）
単 元	武道 剣道
目 標	1. 剣道の特性を理解し、基本動作ができる。（知識及び技能） 2. グループ活動を通して、自己や他者の課題を発見し、合理的な解決に向けて工夫し、考えたことを他者に伝えることができる。（思考力、判断力、表現力） 3. 相手を尊重し、伝統的な行動の仕方を守り、安全に留意して活動している。（学びに向かう力、人間性）

### 指導計画（全9時間）

- 第一次 礼法、基本動作の習得・確認 2時間
- 第二次 基本動作の理解、技能の習得 6時間（本時4/6）
- 第三次 まとめ 1時間

### 授業について

剣道は、竹刀を使って、面、小手、胴の打突部位を打つことが、楽しさの一つであると考えますが、武道特有の礼儀作法を知り、正しい竹刀操作や足さばきなどの基本動作を習得した上で、様々な技を駆使して、一本が取れる楽しさや喜びに気づかせたい。

本校の男子生徒は、中学2年生から高校2年生まで、4年間剣道の授業を受ける。近年では、コロナ感染予防の対策として、防具を共用するのを避けるため、防具を着用して授業を行う学年を中学3年生、高校2年生のみとしている。高校2年生の剣道授業では「試合で相手から一本を取ること」を目標にしている。その目標達成に向けて、中学2年生の授業において、有効打突を打つための正しい基本動作を理解し、技能を習得することが必要だと考える。

そこで本単元では「一本を取るために必要な基本動作を習得する」ことを目標とした。学習内容としては、基本動作や素振り、竹刀での面打ちを行い、基本的な技能を習得させ、一本を取るために必要な要素は何かを考えさせたい。

本時では、有効打突の条件である「刃筋正しく」の部分に着目して、素振りを行う。まずは、素振りについてグループで調べたことを教師と生徒で共有をした上で練習をし、考えたことや練習を通して気づいたことを他者に伝えていく活動を取り入れていく。教師発信ではなく、生徒発信での学び合い学習を通して学びを深めていくことを目指していきたい。

### 題 目 剣道におけるジグソー法を活用した授業実践

#### 本時の目標

- 1. 刃筋正しく、3種類の素振りができる。（知識及び技能）
- 2. 課題に対して、グループで協力して活動し、気づきを発見し、まとめたことを他者に伝えることができる。（思考力、判断力、表現力等）

### 本時の評価規準（観点／方法）

1. 刃筋正しく、3種類の素振りができる。（知識及び技能／活動観察）
2. 課題に対して、グループで協力して活動し、気づきを発見し、まとめたことを他者に伝えることができる。（思考・判断・表現／活動観察・ワークシート）

### 本時の学習指導過程

学習内容	学習活動	指導上の留意点
<b>【導入】</b> 出欠点呼 本時の説明 準備運動	○集合 ○本時の学習内容を把握し、課題を確認する ○準備運動	・健康観察、見学生徒への指導。 ・課題を理解できているか確認する。
<b>【展開】</b> グループごとでの練習 (各クラス5人×4グループ) <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">試行錯誤する</div>  グループ同士の学び合い学習 <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">伝える</div>   <div style="border: 1px solid black; padding: 2px; width: fit-content; margin: 5px 0;">まとめる</div>	○決められた素振りの練習・他のグループへの指導内容の確認 ・正面素振り(A組) ・左右面素振り(B組) ・跳躍素振り(C組)  ○素振りの学び合い学習 ・A組がB組C組に正面素振りについて伝える。 ・B組がA組C組に左右面素振りについて伝える。 ・C組がA組B組に跳躍素振りについて伝える。  ○面打ちの練習	・グループ同士の学び合い学習に向けて、技のポイントや課題を共有して、練習するよう指導する。   ・生徒同士で教え合いながら、正しい技能を身に付けることができるように声かけをする。  ・学び合い学習で伝えたこと、教えてもらったことを振り返りながら、面打ちの練習する。
<b>【まとめ】</b> 本時のまとめ	○本時の振り返り ・3種類の素振りの違いやポイントを振り返る。 ・面打ちとのつながりを見つける。	・素振りで意識したことを共有する。
備考		

## 実践上の留意点

### 1. 授業説明

本単元では、試合において一本を取るために必要な要素を理解させること。また、一本を取るために必要な正しい竹刀操作や足さばきなどの基本動作を身に付けることを目標とし、竹刀のみでできる剣道授業を実践した。

第一次では、剣道における礼法作法、構え、足さばき、を重点的に行い、基本動作の技能の習得を図り、剣道特有の動作を理解させた。第二次では、その場での竹刀打ちや竹刀を打突する面打ちを行い、気剣体一致や残心など有効打突の条件などを理解させて面打ちの練習を行った。そして、一本を取るための要素である「刃筋正しく」に着目して本格的に素振りの練習を行った。

素振りではジグソー法を用いて授業を展開した。手順としては、まず、クラスごとに正面素振り、左右面素振り、跳躍素振りの3種類に分けて課題を設定する。次にそれぞれ設定された素振りのやり方やポイントをワークシートにまとめて理解させ、各グループで練習を行い技能の習得に励む。そして、練習した素振りを他のグループに発表し、素振りのやり方や刃筋正しく振るためのポイントを伝えて一緒に練習をする方法で行った。

留意点としては、各グループでの練習の際に、生徒が素振りのポイントを理解して、正しいやり方で素振りの練習ができていないかを教師側が確認する必要がある。また、左右面素振りや跳躍素振りの習得が難しく、自分ができていないのに発表や他のグループへ指導することに対して後ろめたさを感じている生徒も見られたため、何ができるようにすればいいのか明確にすることが大切である。

### 2. 研究協議より

・一本を取るためには基本動作の習得が必要と生徒に気づかせるために、第一次では、どのような取り組みをしたか。

→基本動作ができていないと一本になる打突はできないことを最初の授業の中で伝え、足さばきなどの剣道特有の動きに慣れさせた。また、最終的なまとめのところで、今まで意識しながら練習してきた足さばきや刃筋正しく打突することは、有効打突の条件にも示されていることを伝えた。

・ジグソー法によって生徒の知識の定着が見られたのは、宣言的な知識かそれとも手続き的な知識か。

→グループで意見交換をしながらワークシートにまとめたり、発表したりすることで宣言的な知識の定着が見られた。しかし、手続き的な知識の定着は、生徒の技能面を見たところあまり感じ取ることができなかった。生徒が宣言的な知識を活用して剣道ならではの用語を用いて、どのように他の生徒に伝えているかを見て取ることができればいいのではないかと助言も頂いた。

・剣道の面白さには、相手との攻防もあげられるが、今回の単元を通して、剣道の楽しさに触れる場面をどのように設けたか。

→アンケートから竹刀を振ること打つことを楽しいと感じている生徒が多かったため、その場での竹刀打ちや面打ちで楽しさに触れる場面を設定した。

協議会にて頂いた助言。

・ジグソー法を活用するにあたって、剣道の土台となるものを教師側が示し、発展的な部分でジグソー法を活用すると生徒が基本と発展の繋がりなどに気づける場面が増えるのではないかと。また、個々で学んだことや生徒の気づきを全体で共有できるような仕掛けをする。

・内観と外観のずれを修正するためにICTを活用する。

・何を目標にして何を学ばせるためにジグソー法を活用するかを明確にして、その日の学びはこれからの剣道授業においての何に繋がるのかを生徒に示す。